

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：34504

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2011～2012

課題番号：23720096

研究課題名（和文）日中戦争期の中国における「国防映画」の製作と日本人表象の構築

研究課題名（英文）Chinese “National Defense Cinema” produced during the Sino-Japanese War and the representation of Japanese in those Cinemas

研究代表者

韓 燕麗（HAN YANLI）

関西学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：10537096

研究成果の概要（和文）：

1930年代半ばごろから第二次世界大戦が終戦する1945年にかけて、中国大陸の上海、武漢、重慶そして当時イギリスの植民地だった香港など広範にわたる地域において、「国防映画」つまり抗日をテーマとする映画の製作が広く行われていた。本研究は、上記四ヶ所にわたる当時の映画雑誌や新聞記事などの一次資料に基づいて言説分析を行い、従来の左右対立の文脈では捉えきれなかった「国防映画」の製作の実態を究明した。さらに、現存するフィルムに対する具体的な読解を通じて、日中戦争期の中国映画における日本人表象の構築について詳細に考察・分析した。

研究成果の概要（英文）：

From the middle of 1930's to 1945, many “National Defense Cinemas” were produced in Shanghai, Wuhan, Chongqing, and Hong Kong also. This research examined the film production conditions in the 4 cities by analyzing newspapers, cinema magazines and documents of the Chinese government of that period. Also this research analyzed the styles of these films, especially analyzed how Japanese were represented in these Anti-Japanese Cinemas.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：日中戦争、映画、日本人表象

1. 研究開始当初の背景

（1）研究開始当初、日中戦争期の中国映画の製作に関する記述は、主にいわゆる「四大格局」と名づけられる四分法によってなされていた。すなわち、下記の四種類である。
①上海の租界や植民地香港で作られた「商業映画」（1937年8月の第二次上海事変より1941年12月の太平洋戦争開戦までの上海共

同租界やフランス租界で作られた映画と、日本軍が進駐する1941年12月までの香港で作られた映画)
②東北や上海など被占領区で作られた「敵偽映画」（1937年8月発足の満州映画協会や1939年に上海で設立された中華電影公司等日本側が主導権を握る映画会社で作られた映画)

③延安で作られた「人民映画」（共産党の革命根拠地で作られたわずかな記録映画）

④武漢や重慶などの銃後で作られた「抗戦映画」（国民党政府による官製抗日映画）

（2）上記の日中戦争期の中国映画に対し、日本・中国における映画研究では、それぞれ以下のような傾向および問題点が見られていた。

・日本における研究

満州映画協会や中華電影公司など、日本側が主導権を握る映画会社についての研究が主である。上海で作られた抗日メッセージを含む映画についての研究がわずかながらあるが、史実の断片に触れることに留まっており、専らこのテーマについて体系的に論じるものではない。また、民間の映画会社ではなく、国民党政権の官営撮影所の製作状況については、南京における製作状況を考察するものがあつたが、武漢・重慶・香港における国防映画の製作に至っては、残念ながら皆無に等しい。

・中国語圏における研究

少数の中国映画研究者にも指摘されているように、この時期の映画に対する評価は、基本的に「政治社会学式の評価方式」が流用されている傾向が見られる。すなわち、時代の制限や美学的価値を排除した目線で、政治的にその内容が正しいかどうかという唯一の基準で一本の映画の価値を判断するのである。このような政治色の濃厚な単一的な視点は、最近出版された映画史研究の書物においても依然と変わらない。中国大陸では、国防映画運動を共産党指導下の左翼電影運動の一環として捉える見方が、1990年代以降の中国大陸における一部の映画史研究において、まだ無批判に継承されている。一方、台

湾で出版される映画史の著書においては、もっぱら国民党政権の官製撮影所による功績を高く評価するものがほとんどであった。

2. 研究の目的

本研究は、①戦時中の映画雑誌や新聞記事などの一次資料に基づいて言説分析を行い、従来の左右対立の文脈では捉えきれなかった「国防映画」の製作の実態を究明する、②現存するフィルムに対する具体的な読解を通じて、日中戦争期の中国映画における日本人表象の構築について考察する、という二点を目的とした。

3. 研究の方法

本研究の研究方法としては、まず映画史研究の基礎的な手法である一次資料にもとづく実証研究を軸とした。映画史における文献資料収集にあたっては、本研究は映画史の枠組みの再考であるため、諸処の映画史研究そのものも分析対象とした。既存の資料の再読・再考を通じて従来の映画史が見落としてきた点を洗い出し、既に広く知られている文献の再読を行うと同時に、必要に応じて新たな資料の発掘も視野にいった。

また、映像資料にあたっては、可能な限り各国・各地域において新資料の発掘を行った。さらに、映像資料に基づき、日本・日本人の表象を中心に映像作品の分析も行った。戦争期の日本映画における中国人の表象と比較しながら、戦争期における日中間の錯綜する文化距離について考察した。

年度別の具体的な研究方法と計画は下記の通りであった。

（1）平成23年度：

①中国の各地にある基礎的資料の収集およ

び新資料の発掘調査。公文書や新聞・雑誌記事を中心とした各種一次資料の発掘・収集。

- ②戦時中における中国と日本の民間交流についての基礎的な文献の収集・読解。
- ③考察の対象となる作品のコーパスを定め、現存するフィルムの実態把握。
- ④上記資料の入手・視聴および該当作品のテキスト分析。

(2) 平成24年度：

- ①前年度に引き続き、文献資料と映像資料の収集。
- ②映像作品に対して比較文化研究の角度から美学的分析。
- ③研究成果を踏まえた上での成果公表。

4. 研究成果

二年間の研究期間において、当初の計画通りに調査・研究を行った。具体的には下記の研究成果をあげられた。

(1) 映画フィルムの発掘調査

日本、香港、北京のフィルム・アーカイブへ調査に赴き、積極的に現地から情報収集を行い、歴史的価値の高いフィルムを調査してきた。

(2) 映画雑誌などの文字資料の調査

映像資料を収集すると同時に、各大学の資料館や、さらに中国内陸の武漢・成都、重慶における図書館や政府公文書館で、同時期の政府公文書や雑誌・新聞などの紙媒体のメディアに掲載された映画評論なども網羅的に収集・調査・分析した。たとえば1938年に内陸の武漢で刊行した映画雑誌『抗戦電影』と、重慶で発行された各党派の新聞など、今までの映画研究では決して重要視されて

こなかった貴重な文字資料に対する解読を行った。

(3) 以上述べてきた調査の成果を元に、日本および日本人表象の構築を中心に、戦争期の日本映画における中国人の表象と比較しながら、詳細な映像分析を行った。さらに、その分析内容について、日本現代中国学会の全国大会などで学会発表などを行い、積極的に日本国内外の映画研究者と意見交換した。

上記の三点によって、戦争期における日中間の錯綜する文化距離について、今まで欠落していた視点からより深い考察を行うことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 韓燕麗、1920年代のマレー半島における中国系移民の映画製作について、関西大学東西学術研究所紀要、査読なし、第46輯、2013年4月、71～82頁。
- ② 韓燕麗、戦争記憶的重構和再現：試論兩部「少数民族」抗日電影、関西学院大学経済学部紀要『エクス 言語文化論集』、査読なし、第8号、2013年3月、73～85頁。
- ③ 韓燕麗、国家電影史的建構与解構——論新馬兩國建国期間的華語電影制作、北京：『当代電影』、査読あり、第19号、2012年9月、65～69頁。

- ④ 韓燕麗、『香港攻略戦』：記日拠時期唯一一部在香港撮製の劇情片、香港電影資料館『通訊』、査読なし、第 58 号、2011 年 11 月、19 頁～24 頁。

[学会発表] (計 4 件)

- ① 韓燕麗、戦時中の重慶における官営撮影所の映画製作について、日本現代中国学会第 62 回全国大会、2012 年 10 月 21 日、一橋大学。
- ② 韓燕麗、以少数民族為主人公的中国抗日題材電影、国際學術研討会：中日韓電影对第二次世界大戰的表述、2012 年 2 月 25 日、中国香港：香港理工大学。
- ③ 韓燕麗、ナショナル・シネマの構築と脱構築——マレーシアの華語映画について、中国文芸研究会 2011 年度夏合宿、2011 年 8 月 30 日、福井県三国市。
- ④ 韓燕麗、Third Cinema は可能か——「マラヤ化中国語映画」に関する考察、日本映像学会第 37 回全国大会、2011 年 5 月 29 日、北海道大学。

[図書] (計 2 件)

- ① 森時彦編、韓燕麗、京都大学出版会、『長江流域社会の歴史景観』、2013 年 6 月刊行決定。
- ② 石川禎浩編、韓燕麗、北京：社会科学文献出版社、『二十世紀中国的社会与文化』、2013 年 3 月、496 頁 (105～124 頁)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

韓 燕麗 (HAN YANLI)

関西学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：10537096

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：